

ている月は見たくない、と月見をやめてしまいました。

祖母の祖父への想いを知って胸が熱くなりました。

父は満州から帰ってからしばらくしてビルマへ出征したが、捕虜になってマラリヤに罹ったりして25年に帰国しました。

それまでは男手がなく、母はとても苦労したと思います。

私は母と買い出しに行って、泉州でさらし木綿を買い、体に巻き付けて家まで帰ってくると、それを売って米にしたこともあります。

そんな母と私は、よく祖父が倒れた場所＝現在はゲートボール場の道とトイレの間、当時は土手道だった所へ行き酒を供えて祖父を偲びました。

母にとって、祖父は、一人娘の自分を目に入れても痛くないほど可愛がってくれた父親。

また、明治からずっと蒟蒻を作り、村の人からは「こんにやく屋」と呼ばれてとても親しまれていた父親でしたから、母は感慨もひとしおであったろうと思います。

※蒟蒻＝こんにやく、臍＝へそ

※おうこ＝両端に荷物をかけてかつぐ棒

